第 2 回富山市総合計画審議会「第 2 回 協働・連携部会」
議事録

日時：2015 年 11 月 16 日（月）10:00～12:00
場所：富山市役所　302 会議室
出席者：（順不同）

中村和之	富山大学経済学部学部長・教授（部会長）
今井壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢見る会理事長
大間知雄三	公募委員
上口勇三	大沢野地域自治振興連絡協議会会長
川田文人	一般財団法人北陸経済研究所理事長
高田敏成	細入自治会連合会会長
宮口侗廸	早稲田大学教育・総合科学学術院教授
吉田良雄	山田地域自治振興会会長

企画管理部　今本部長、上谷次長、西田次長、酒井参事、清水主幹
財務部　竹内次長
市民生活部　清水次長
議会事務局　船木次長
大沢野総合行政センター　森江次長
山田総合行政センター総務振興課　岩杉課長
細入総合行政センター総務振興課　竹井課長

議事内容：

1. **開会**
2. **部会長挨拶**
3. **第２次富山市総合計画基本構想（素案）について**

〇資料「第 2 次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- 協働・連携については様々な課題がある。本日は第 1 回の審議を踏まえて事務局で修正した素案についてご議論をいただきたい。
- まず、大間知雄三委員よりご提出いただいた資料についてご説明をお願いしたい。

委員

- 計画を進めていく上では、地域の住民がどのように考えているのかが重要なポイントになると考えている。関連するものとして町内会・自治会についての新聞記事をお持ちした。この記事が富山市の状況に合致するかどうかは分からないが、市内には町内会・自治会に反対する意見もある。

部会長

・　コミュニティには様々なレベルの問題があるだろうが、構想段階と計画段階、実施段階をどのように結び付けていくのかが重要である。コミュニティと行政の関わり方も重要だろう。
・　前回の部会では、中心市街地と郊外、中山間地域の関係をどのように位置づけていくかが一つの論点だったと記憶している。素案には修正が加えられているようだが、この点について、委員の皆様はどのようにお考えか。

委員

・　前回欠席したこともあり、資料を持参させていただいた。現在は富山市の都市計画審議会、総務省の過疎問題懇談会の委員をしている。町には町の価値があり、農山村には農山村の価値があると考えている。
・　総務省の過疎問題懇談会では、「集落ネットワーク圏」という概念が提示されている。過疎地域であっても、暮らしの場としての価値があるからこそ住む人がいる。そうした地域をきちんと支える仕組みをつくるべきではないか。全国でも、昭和の旧村などを一つの単位として地域を支える仕組みづくりが始められている。ガソリンスタンドの地域経営もその一つだろう。
・　富山市は多様な地域から成り立っている。富山市が合併した当時は、「海から 3,000m まで」という言い方もあった。基本構想ではそうした多様性にもっと触れるべきではないか。
・　中山間地域の集落には、旧小学校の単位で人の付き合いやつながりが残っている。全国的にもそうしたつながりの重要性が認識され始めており、生活をいかに支えていくかに言及すべきだろう。
・　島根県では集落単位だけでなく、地域自治組織、公民館単位での計画や独自の予算措置が可能となっている。富山市でも、そういった検討をしてはどうか。

委員

・　田舎に行くほど閉鎖的で、日常的に気軽な相談をすることは難しいと感じている。そうした閉鎖的な雰囲気を変えていかなければ支え合いも難しいのではないか。また山奥に行くほど集落間の距離は広がる。簡単には支え合いはできないと感じている。
・　老人会といった組織も崩れ始めている。若い人たちが参加しないとなると、今いる人で固定的な対応をするしかない。住民自身が気づき、動くことが打開策になるのではないか。

部会長

・　コミュニティをいかに機能させるかということについては、今後施策のレベルで考えていく必要があるだろう。コミュニティには地域のつながりだけでなく、同年代の人のコミュニティ、婦人会のようなものもある。いかにそうしたつながりを強くしていくことができるか、行政がいかに関わっていけるかということを検討する必要があるだろう。

委員

・　細入の集落でも、コミュニティは問題になっている。集落に担い手がおらず、隣に何かを頼むにも、隣も高齢者となると支え合いは難しい。災害時の対応も大きな問題である。
・　しなやかな行財政づくりに向けて無駄を省くことは重要だが、中山間地域では施設一つを維持するのにも苦労をしている。人口が少ないために使用頻度が低い、効率性が悪いということで補助が打ち切られると、施設の維持管理が難しくなり、集落はますます住みにくくなってしまう。施設はコミュニティにとっても重要な場であり、施設の維持管理に支障をきたすようなことがあると困る。実施計画にはそうしたことも記載いただきたい。

部会長

- 一つは財政的な問題、もう一つは効率的な施設運営に関する問題だと思うが、効率性は使用頻度だけで計れるものでもない。現在様々な自治体で公共施設の検討が行われているが、集約化も含めて検討していく必要があるだろう。
- 前回の部会では政策同士のつながりが見えにくいというご指摘もいただいたが、その点についてはどうか。

事務局

- ➢ 現状や主要課題、施策のつながりが分かりやすいよう、今回新たに資料を作成した。

委員

- 分かりやすくなったと思う。

委員

- 協働とは、「多様な力を組み合わせること」だと考える。富山市の様々な地域で、様々な力を組み合わせることが重要である。地域おこし協力隊のように、外から他人が加わることによって力が発揮される協働の形もある。富山市には町内会もあれば中山間地域の集落もある。協働の方法を考えていくことが重要である。

委員

- 町内会では高齢化が進んでおり、地域活動を展開する見通しを立てることもできない。新しい何かを考えなければならないという局面に来ていると感じる。
- 個人的に「エイジレス塾」というものに参加しているが、ボランティアと行政の考え方をいかにすり合わせていくかも重要な課題である。

委員

- 「富山らしさ」という言葉はどういった意味合いか。「レジリエントな環境未来都市」をブラッシュアップしていくという方向性なのか。
- 公共交通を軸としたコンパクトシティを進めていくということだが、公共交通にはまだ不足があると感じている。交通弱者に対する施策が必要だろう。
- 北陸新幹線は、日本初の環状新幹線となる可能性もある。環日本海の中心、日本の中心としての誇りを持つことが重要ではないか。
- 学費の無料化など、住みやすい環境を整えていくことで若い世代が増える。人口の維持には若い世代の増加が必要である。雇用の創出についても同時に取り組んでいく必要があるだろう。

部会長

- 富山市は、地域にある素晴らしい素材をまだ活かしきれていない。コンパクトシティにしても、まだコンパクトが実現されたとは言えない。ブラッシュアップは必要だろう。
- コミュニティの強化については大きく二つの問題がある。一つは、今ある活動を活性化させること。もう一つは、すでにコミュニティが崩壊している場合に新しいコミュニティのあり方を検討することである。「主要課題⑩市民協働による共生社会づくり」にそうした観点を具体的に書き加えてはどうか。

委員

- 例えば町内会、小学校区単位で防災に取り組むことは市民協働ではない。同じ人たちが力を合わせるのは単なる共同社会である。協働の本質は、異なる種の力を組み合わせるというところにあると考えている。また、協働に当たってはネットワークの考え方が重要になる。
- 富山市は全体的に付き合いの悪い地域である。知らない人をすぐに仲間にしてしまうような雰囲気作りが必要である。イベントが開かれ、出会いが生まれ、これまでとは異なる力が発揮されていく、そうした姿が地域社会の理想ではないか。
- 他地域では若い世代を積極的に取り込んでいくような取り組みが行われている。中山間地域における世帯・人口の減少といった危機的な問題と、コミュニティの強化の問題は、異なる種の要素を含んでいるのではないか。

部会長

- 宮口先生のご発言された観点を入れてはどうか。コミュニティは広義であり、何でもかんでもコミュニティでくくってしまうと、かえって見通しが悪くなるかもしれない。

委員

- 富山らしさの一つに「薬の富山」がある。薬草、薬膳をキーワードにしてはどうか。薬膳カレーは一人一人の体調、季節に合わせて作る必要がある。気安く集まれる場所を作っていく必要があるという思いから活動を行っている。
- 最近ではシェアハウスも見られるようになっているが、高齢者と若者が一緒に生活できるような暮らしの形を考えていけるとよい。サロン、家庭菜園なども含めて活動を広めていけば、コミュニティも自然と広がっていく。子育ても含めて実現されるようになっていくのではないか。

部会長

- 仕組みづくりを考えていくということだろう。今後、個別の議論になってきたときにまたご議論をいただければと思う。サロンのような場づくり、異なる性格の人が入ることでコミュニティが活発化するということだろう。

委員

- 「主要課題⑤集約化（拠点化）とネットワークの整備」には、「あらゆる世代が自動車に頼ることなく歩いて暮らせる社会」との記載があるが、この文章をそのまま読むと富山市が全て歩いて暮らせるのではないかという印象を受ける。富山市には様々な地域性があり、都市的な地域と集落的な地域の違いを踏まえた表現とするべきではないか。

委員

- 低炭素社会の実現について言及があるが、レジリエントシティ戦略等との関係はどうなっているのか。基本構想の中でも、レジリエントシティについて触れた方がよいのではないか。
- 10 年間の基本構想として、健康寿命日本一など、分かりやすい目標や市民が夢を持てるような内容が記載されているとよい。

委員

- 市内には町内会をはじめ様々な組織があるが、そうした組織に対するアンケート調査を実施したことはないのか。現場の組織がどう考え、どう市の施策を受け止めているのか、今後の意向など必要な意見を聞くことが重要だと考えている。

事務局

- 富山市では以前より住民意識調査を経年で実施しており、市民のご意見を聞いている。また、総合計画の策定にあたっては市民ワークショップを実施し、現在の富山市の課題、将来の姿について話を聞いている。
- 市民一人一人のご意見を伺いながら、委員の皆様にも富山市としての総合計画がどのようにあるべきかご議論いただいているところである。こうしたご意見の変節を見ながら、検討を進めて行ければと考えている。

委員

・ 町内会の活動状況などについては把握していないのか。

事務局

- 住民意識調査の中には該当する設問はない。

部会長

・ 実施段階においては、実態の把握、他市町村での先進事例調査なども必要になってくるだろう。計画の策定に必要な手続きはしっかりと取った方がよいというご意見だったと思う。

委員

・ 「富山市の現状⑤共生の社会づくり」の中で、人口減少・高齢化に伴う地域コミュニティ機能への影響について記載されているが、もっと強い危機意識を表明してはどうか。町内会もすでにほとんど機能していない中で、10 年後には崩壊しているだろう。コミュニティの定義や単位そのものを見直す必要があるかもしれない。

委員

・ 富山市には企業経済があるため、町内会が一生懸命頑張らなくてもよい状況である。これが全国的な県庁所在地に共通した特徴なのかは分からないが、県庁所在地よりも中小都市の方が相当な危機感を持って地域コミュニティの立て直しに取り組んでいる。

委員

・ 地区センターを中心に、区長さんは本当に素晴らしいと思う。
・ 約 40 年前、公民館の使い道がなく困っているときに、社交ダンスをスポーツダンスとして普及させる活動が始められた。ダンスの取組は40年近く経った今でも続いている。楽しい活動は続いていく。

委員

・ 交流という観点をもう少し打ち出してもよいのではないか。中心市街地と過疎地域にはそれぞれ異なるコミュニティがある。中心市街地と過疎地域が交流することで新たな取組も生まれる。
・ 最近は、集落内の交流も少なくなってきている。単にイベントを開催するだけでなく、地域として朝から晩までお祭りのように楽しむ動きが必要ではないか。

部会長

・ 基本構想の中に言葉として表現できる部分と、基本計画や実施計画に盛り込む部分があると思う。

委員

・ 山田地域では人口減少下で様々な取組が始められている。都市農村間交流と言うことで新しく人も受け入れたり、都市農村と福祉をテーマとする交流会も企画している。色々なご意見が出されているが、山田地域ではこれといった問題がない状況である。

・　全国でも島根県の海士町は有名だが、活性化には「若者・よそ者・馬鹿者」が大事だと言われている。実際にやってみないと分からないことも多いのではないか。

部会長

・　富山市には多様な地域があり、様々な取り組みが行われている。基本計画や実施計画をとりまとめる際には、コミュニティ、公共施設などの問題も含めてすでにうまく取り組んでいる地域から学ぶことも重要だろう。

委員

・　「基本目標（4）共生社会を実現し誇りを大切にする協働のまち」とあるが、地域ごとのコミュニティの強化とともに、広域での市民協働のネットワークも必要である。様々な人材が富山市の中でネットワークをつくり、力を発揮するという整理をしてはどうか。

部会長

・　本部会はもう一度開催した方がよいだろう。他の部会と関連するご意見もいただいたので、全体感も持って検討していくことができるとよい。今回のご意見をもとに、基本構想の案を再度検討いただく形にさせていただきたい。

委員

・　もしよければ、皆さんと一緒にほたるの舞い上がる環境未来都市をつくっていきたい。

部会長

・　来年 1 月になろうかと思うが、他の部会での意見も踏まえた修正案を次回の部会でご審議いただければと思う。調整部会でも検討を行い、総合計画審議会としての基本構想の素案を固めることになる。

事務局

- ➢ 大間知委員から、現場の意見が分かるとよいというご意見をいただいた。但し、市内には 1,400～1,500 の町内会があり、これから調査を行うことは難しい。

委員

・　可能な範囲でお願いできればと思っている。

事務局

- ➢ 調査の規模や調査の対象とする地域を市民生活課とも検討の上、意見の集約ができればと考えている。
- ➢ 自治会の活動状況、世代交代はどのようにされているか、役員のなり手がいないことにどのような対処をされているのかといった具体的な内容について聞くべきだろうか。

部会長

・　基本構想で「コミュニティの強化」を掲げる場合には現状の把握も重要だというご意見であった。今回の基本構想の検討としてやるべきかというと必ずしもそうではない。施策に反映できるタイミングで、アンケートや意見の集約など、問題の把握に必要な調査を実施していただきたい。

委員

・　基本計画は今後 10 年に関わる計画であり、問題点はしっかりと把握しておく必要がある。大きな問題点が見つかれば、今回の計画に反映していただければと思う。

以上